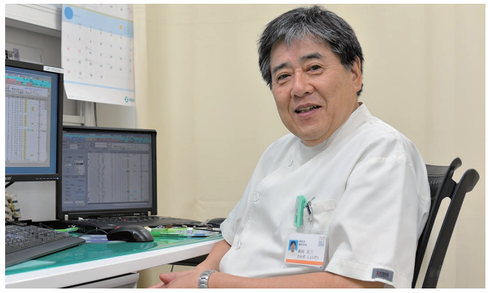
2014年6月1日　発行　Vol.12　発行:医療法人育和会

はぐくみ

医療法人 育和会　育和会記念病院

育和会記念病院　〒544-0004 大阪市生野区巽北3丁目20番29号　TEL 06-6758-8000(代表)　FAX 06-6758-5690　http://www.ikuwakai.or.jp/
介護老人保健施設 ひまわり　〒544-0012 大阪市生野区巽西2丁目9番31号　TEL 06-6751-7290　FAX 06-6751-8900

地域医療連携の更なる強化をめざして



育和会記念病院が改築されて一年が経過しました。地域の先生方のおかげをもちまして、少しずつ当病院も認知していただいているように感じ、あらためて感謝申し上げます。地域の中核病院としての診療体制や診療機能を確立し、地域の住民の皆様方はもちろん、いつもご支援いただいている、地域医療の一線で診療に当たられています先生方にも、信頼していただける病院として機能できるように整備していきたいと考えています。

この４月には２年ごとの診療報酬の改定がおこなわれました。団塊の世代が後期高齢者入りする 2025 年には、医療費が現在の 40 兆円から 62 兆円へと増大するという試算に対し、医療の効率化の名の下に、医療提供体制の再構築と地域包括ケアシステムの構築を図ることを目的として、医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実が重点課題に掲げられました。前回の改定での、「7：1 病床」では入院に対する点数が高かったため、多くの病院が高収入を得ようと飛びつき、患者の実際の重症度に必ずしも見合わなくても、看護師の頭数さえそろえればよかったことから、基準を満たした病院が増え、結果として、医療費が膨らみ、看護師の争奪戦が繰り広げられ、地方病院の看護師不足を招くこととなりました。看護師の売り手市場から、その増収分は人材紹介会社に吐き出されていることが一部問題にもなったことはご存知のとおりです。それとは逆に、回復期や慢性期の病床の点数は減額されたために、病床の削減が進み、転院先が見つからない高齢者などが、急性期病院に居続けることにもなりました。このことから、今回の改定では急性期病床を減らすために、急性期病院の認定条件を厳格にしています。

また、早期退院を促進するために、リハビリテーションを重点的に行う慢性・回復期病床（10 対 1 入院基本料）や新設の地域包括ケア病床への転換を促す策を示しています。さらに、在宅へのシフトもより明確にされ、在宅医療の更なる充実策が打ち出されました。「かかりつけ医」の制度もこのひとつであります。「かかりつけ医」の普及により、過剰診療をなくすことを目的に、医療費の低減を狙っています。しかし、日本のように大病院志向のある患者さま方が選択するかどうかは甚だ疑問であります。また、在宅療養後方支援病院（200 床以上）の制度も新設され、在宅患者の急変時への対応が円滑に進むことを期待しています。

いずれにしましても、厚労省も今まで様々な試みをしてきましたが、民間病院が多い日本では、病院の自由意志に任せ、診療報酬改定で誘導するだけでは利害が衝突して、厚労省が思い描く姿への調整は困難であるために、医療機関がそれぞれの病床機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）を選択し、都道府県知事に報告する「病床機能報告制度」が平成 26 年 10 月から導入されることとなりました。これにより、都道府県は報告された内容を基に平成 27 年度から「地域医療ビジョン」（地域の医療提供体制の将来のあるべき姿）を策定します。都道府県が地域の実情に合った医療計画を策定する指導力が有るかどうかも問題になりますが、行政側は喫緊の課題としているようです。

日本の医療は多くの地域の診療所や民間病院が担ってきたという自負を持って、「いつでも、どこでも、だれでも」というフリーアクセスや平等性を損なわないような医療体制の維持に努めねばならないと考えています。当院のような 200 床規模の中小民間病院では、大学病院をはじめとする大病院と地域の診療所の狭間にあって、生き残るために様々な工夫と努力が必要となることを痛切に感じています。当院の機能を見直し、地域の先生方と共存できることが最大の要点と考え、今後更なるご指導とご助言を先生方にはお願いする次第です。

育和会記念病院　院長　高田 正三

新任医師紹介

循環器内科
山治憲司
やまじ　けんじ

本年４月から循環器内科に勤務させていただいております。
近畿大学医学部を卒業後、研修も同大学病院で行い、近畿大学医学部循環器内科に所属し循環器診療に携わってまいりました。
大学では主に循環器急性期疾患に携わっておりました。
育和会記念病院では今まで携わることのできなかった経食道エコー検査などもさせていただき、勉強させていただいております。地域医療に貢献できるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

消化器内科
黄田桂司
こうだ　けいじ

本年4月より育和会記念病院の消化器内科に赴任いたしました黄田 桂司と申します。
金沢医科大学を卒業後、平成 18 年に大阪市立大学附属病院消化器内科へ入局し、いくつかの関連病院で勤務してまいりました。
育和会記念病院では内視鏡検査・治療を中心に消化器疾患全般の診療をさせていただきたいと考えております。
少しでも地域医療に貢献できるよう全力を尽くす所存でございます。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

研修医
西田宙夢
にしだ　ひろむ

この４月からこの育和会記念病院で２年間研修させていただくことになりました、研修医の西田宙夢です。出身大学は大阪市立大学です。もともと私は中学生の頃まで東成区の新深江の近くに住んでいたのもあって、この病院には家族がお世話になっただけでなく私自身も２回入院したことがあって、勝手に親近感を感じていました。去年も６週間実習に来させてもらって、医局の雰囲気の良さに惹かれて研修させて頂きたいと思いました。今のところ将来何科に進みたいかはっきりとは決まってなくて、内科か外科ならどちらかといえば内科かな、という感じです。内科の中では呼吸器か消化器に興味を持っています。この育和会記念病院で研修する間に、しっかりスキルを習得し進路も決めていきたいと思っています。これから２年間よろしくお願いします。

研修医
高木康裕
たかぎ　やすひろ

今年４月から初期研修医としてお世話になります、高木康裕と申します。私は奈良で生まれ、中学、高校時代を神奈川で過ごし、大学受験をするにあたってやはり自分には関西の水があっていると感じ、大阪市立大学に進学しました。昨年当院に見学に来させていただいた際、病棟や医局に明るい雰囲気が流れているように感じ、また院内も綺麗で気持ちよく働けそうだなと思い研修先に希望させて頂きました。現在、上級医の先生方、コメディカルの方々の暖かいバックアップのもと順調に研修生活を滑り出せていると感じています。研修医という勉強させていただいている身ではありますが、育和会記念病院に少しでも貢献出来るよう精進していきたいと思っております。よろしくお願いします。

研修医
鷲見宗一郎
わしみ　そういちろう

本年４月より初期研修医としてお世話にならせていただくことになりました鷲見宗一郎と申します。
兵庫医科大学を平成 25 年に卒業後、初期研修をするにあたり医療の現場における様々な場面を経験し手技や知識を身につけたいと考え、生野区という地域の中核病院であるこの育和会記念病院で働かせていただくことになりました。
医師というにはまだまだ勉強不足であったり不慣れな点が多くあり、周りの先生方や病院のスタッフの方には御迷惑をおかけすることも多々あると存じますが、少しでも患者さまのためになれるように一生懸命やっていきたいと考えております。日々努力し励んでいく所存でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます

慢性呼吸器疾患センター開設のご挨拶

謹啓

春陽の候、先生におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は育和会記念病院との病診連携において暖かいご指導、ご鞭撻を賜り深く感謝申し上げます。また、一昨年５月に行いました当院呼吸器内科による「育和会呼吸器疾患地域連携の会」では多数の先生方のご参加やご関心を賜り、双方向の話し合いができ嬉しく思っております。

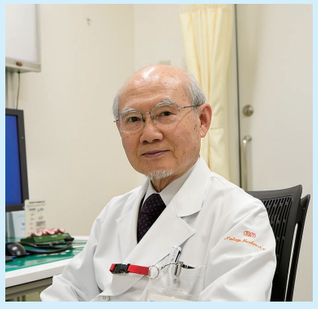
さて、超高齢化時代をむかえるなか COPD を始めとした慢性呼吸器疾患を持つ患者さまがますます増えております。多くの場合は循環器疾患、糖尿病、脳血管障害などと合併しており息切れや急性増悪を繰り返すために QOL の低下を助長いたします。このため早期の診断や治療の必要性が指摘されております。また呼吸リハビリテーションの有用性も実証されてきており、当院でも積極的に行っております。

このような社会的、医療的背景をふまえて私たちはこのたび「慢性呼吸器疾患センター」を開設することに致しました。またそのセンター長としてこの領域に造詣の深い寺川和彦先生（略歴参照）を迎えることができ心強く思っております。この呼吸器疾患センターと地域の先生方との交流を通して隠れた多くの慢性呼吸器疾患の診断や治療方針の相談などが盛んとなり、患者さまやひいてはご家族の QOL の向上に少しでも貢献できれば幸いと考えております。

呼吸器内科スタッフ一同も協力して取り組んで参りたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

謹白

平成 26 年　４月　吉日



育和会記念病院　名誉院長　栗原 直嗣

育和会記念病院　理事長　山住 俊晃

慢性呼吸器疾患センターについて

本年４月から大阪市立大学大学院呼吸器内科学平田一人教授および栗原直嗣育和会記念病院名誉院長の推薦、山住俊晃理事長の温かいご理解をいただき育和会記念病院の慢性呼吸器疾患センター長に赴任しました。

略歴に示しましたが、私はこれまでは呼吸器内科の臨床を主としておこなってきましたが、ここ４年間は大阪市健康福祉局（現健康局）の首席医務監（2 年間は大阪市保健所長を兼務）として行政医師の経験も積んできました。

私たちの「慢性呼吸器疾患センター」の目指す方向としては以下のとおりです。

慢性閉塞性肺疾患（COPD) は 600 万人以上と推定されており、厚生労働省の「健康日本 21（第２次)」では、今後対策を急ぐべき疾患として COPD が癌、循環器疾患、糖尿病に次いで取り上げられました。又 COPD は肺炎死亡の増加や肺がん死亡のリスクを高めていることも知られており、COPD の認知率の向上、早期診断の重要性が叫ばれています。

当院周辺の地域においては高齢化率も高いと聞いており、一般診療所に通院中の方々の中にも慢性呼吸器疾患を合併している患者さまは少なくないものと推察されます。

ここでの慢性呼吸器疾患とは COPD、気管支喘息、気管支拡張症に代表される慢性下気道感染症さらに種々の原因による間質性肺炎、塵肺、さらには肺結核後遺症等々が含まれます。

当院では入院患者の多くはこれら慢性呼吸器疾患の急性増悪で外来受診する他、施設などから紹介入院されることが多いと聞いております。COPD などの慢性呼吸器疾患の早期診断、治療に対して地域の先生方と連携して取り組んでいくことを目指しております。

また呼吸器診療においては、メデイアでよくとりあげられている「夜間無呼吸症候群」も大切な対象疾患です。当センターにおきまして、スクリーニング検査や精査（ポリソムノグラフィー）などを積極的に行って参りたいと考えております。

現在木曜日の午後に呼吸器内科の外来を担当していますが、近々慢性呼吸器疾患相談外来のような形を考えております。今後地域の先生方のご指導を仰ぎながら、お役にたてる慢性呼吸器疾患センターを作ってまいりたいと思っています。慢性咳嗽・喀痰のスクリーニング、呼吸器リハビリテーション、夜間無呼吸のスクリーニング検査等お気軽にご相談いただき、先生方と双方向での患者ケアをしていければと思っています。どうかよろしくお願いします。

育和会記念病院慢性呼吸器疾患センター長　寺川　和彦

寺川 和彦（てらかわ かずひこ）

日本内科学会認定医 / 日本呼吸器学会専門医、指導医
日本アレルギー学会専門医 / 日本医師会認定産業医
FCCP（米国胸部医学会フェロー）
大阪呼吸循環器研究会　世話人

略　歴

昭和 52 年	大阪市立大学医学部卒業
昭和 57 年	同　大学院内科学１修了、医学博士
昭和 57 年 10 月	同　第一内科助手
昭和 60 年 11 月	馬場記念病院内科副部長
昭和 62 年　7 月	大阪市立桃山市民病院内科
平成　5 年 12 月	大阪市立総合医療センター　呼吸器内科副部長
平成 16 年　4 月	大阪市立北市民病院副院長
平成 18 年　8 月	大阪市立北市民病院院長
平成 21 年　4 月	大阪市健康福祉局首席医務監
平成 24 年　4 月	大阪市健康局首席医務監
平成 26 年　4 月	育和会記念病院　慢性呼吸器疾患センター長

近隣の先生方の紹介

病診連携でお世話になっている診療所の先生方をシリーズでご紹介します

岸田内科

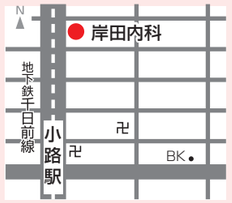
きしだ　やすひろ
岸田 泰弘 先生
内科・小児科・消化器科・循環器科・呼吸器科
大阪市生野区小路東1-3-26　TEL.06-6751-3500

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30～12:30	○	○		○	○	○
18:00～20:00	○	○		○	○	

特　色
日進月歩の医学に対応して、最新の情報を地域の方々に提供し診断・治療を行っています。学校医、園医として、お子さまからお年寄りまで医療・介護なんでも気軽に相談できる医療機関です。

設　備
心電図・超音波診断装置・胸部 X 線診断・上部消化管造影検査・簡易睡眠時無呼吸検査・呼吸機能検査

診療方針
本人はもちろん、お子さまからご老人まで、ご家族のことも気軽に相談できる、また病気の事だけでなく、介護や福祉の事も相談できる医療機関として、25 年の間地域医療に携わってまいりました。ご家族皆様の健康な生活を支える医療機関としてこれからも歩んで行きたいと思っています。



きららこどもクリニック

かわじり　みえ
川尻 三枝 先生
小児科・アレルギー科
大阪市生野区巽東1-2-14ウィングヒルズ1階
TEL.06-6757-1919

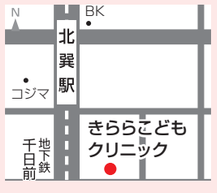
診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
15:00～18:00	○		○		○	

※月・水・金 14 時～ 15 時は
予防接種・乳児健診 (要電話予約)

特　色
ただでさえ、痛い、怖い病院というイメージをやわらげるため、明るい公園のようなイメージの病院にしました。
お子さまの体の事、発達の事、予防接種の事、なんでもご相談ください。web で時間予約できます。

設　備
各種迅速検査・迅速血球 CRP 測定器・レントゲン・呼吸機能検査
小さなお子さまの血液検査 (アレルギー検査など) や点滴も得意です。

診療方針
病気を治す以外にも予防・子育て支援にも力を入れています。



※先生方のご投稿をお待ちしております。お問い合わせは地域医療連絡室までご連絡ください。

INFORMATION

開放病床について

開放型病院

当院は、平成 25 年 10 月に開放型病院として承認を受けました。地域の医療機関が組織的に連携を結び、患者さまにとってより良い医療を提供することを目的としています。この制度により、開業医の先生方が、必要に応じて当院を訪問し、主治医と共同で、入院中の患者さまを診療・指導することができ、患者さまは、入院前・入院中・退院後という治療経過に即し、一貫した治療を受けるメリットがあります。

登録医

開放型病床を利用していただくためには、「登録医申請書」の提出が必要になります。申請書が必要な場合は、地域医療連絡室までご連絡ください。
地域医療連絡室　TEL 06-6758-8115

開放型病床の利用

①登録医の先生方より地域医療連絡室に診療情報提供書を FAX してください。
②担当医師と相談後、地域医療連絡室より入院日や主治医について電話連絡いたします。その後、診察予約票を登録医療機関さまに FAX いたします。

登録医療機関 → 診療情報提供書 → 当院
当院 → 診察予約表 → 登録医療機関

登録医の訪院

①電話または FAX にて「地域医療連絡室」へご連絡ください。訪院の日程調整をいたします。
②来院当日は「地域医療連絡室」にお越しください。
③登録医控室にご案内後、白衣と名札を着用していただきます。
④入院病床へ地域医療連絡室スタッフがご案内します。
⑤訪院後は共同指導録に記載いただき、白衣・名札をご返却ください。

訪院時間

原則、下記時間が来院可能時間です。
平　日：午前　9:00 ～午後 5:00
土曜日：午前　9:00 ～午後 1:00

開放型病院共同指導料

当院の開放型病床を利用され、共同診療・指導を行った場合、開放型病院共同指導料が登録医療機関さまにて算定できます。
開放型病院共同指導料 (I) 患者さま 1 人 1 日につき 350 点

お問い合わせ先

育和会記念病院 地域医療連絡室
TEL 06-6758-8115(直通)　FAX 06-6758-8007
E-mail　chiiki@ikuwakai.or.jp

編集後記

地域医療連絡室と医療福祉相談室は、現在、右記のスタッフで活動しています。今後もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。また、今後の誌面作りについてご意見・ご感想がございましたら、電話・FAX 等にてお聞かせください。皆さまからのお声を心よりお待ちしております。

〈地域医療連絡室〉

後列　左から佐藤・鹿島・植田
前列　左から住川・笠間・三好・黒川

〈医療福祉相談室〉

左から　野間・嶋内・村上・水澤

地域医療連絡室直通TEL：06-6758-8115　検査予約専用TEL：06-6758-9230　FAX：06-6758-8007
医療福祉相談室直通TEL･FAX：06-6758-1080